

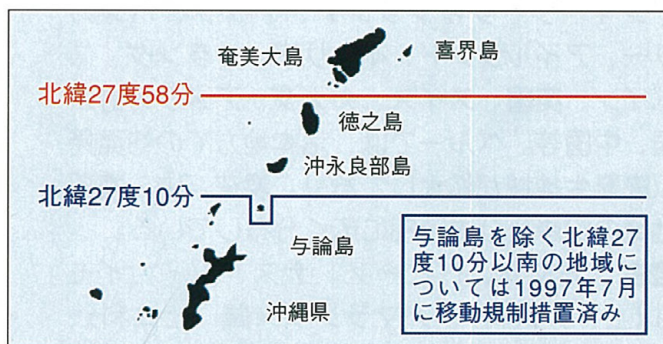
カンキツグリーニング病に関する新たな規制地域等の追加について

カンキツグリーニング病はカンキツ類の重要病害で、我が国では1988年に沖縄県西表島で初めて発生が確認されて以後、沖縄県の広範囲で多数の罹病樹が発見された(本誌第53号)。本病の国内におけるまん延防止のため、1997年7月、植物防疫法施行規則の一部が改正され、北緯27度10分以南の南西諸島(与論島除く)が本病にかかる移動規制の対象地域に指定されるとともにカンキツ類等の生植物(苗木等)と媒介昆虫であるミカンキジラミの移動が規制された。

その後、本病の発生を危惧した鹿児島県が沖縄県の発生地域に隣接する与論島で調査を行ったところ、2002年に本病の発生が確認された。2006年までに門司植物防疫所と鹿児島県が奄美群島の各島を調査した結果、与論島のほぼ全域、沖永良部島、徳之島及び喜界島の一部地域で発生が確認された。このため、本病の発生状況に応じて、定期的な調査、媒介虫であるミカ

ンキジラミの徹底防除及び罹病樹の伐採により早期根絶に向けて防除を実施してきたが、今般、与論島、徳之島、沖永良部島については植物防疫法に基づく移動規制の対象地域に指定することになった。また、本病を媒介するミカンキジラミのまん延防止のため、ミカンキジラミの寄主植物であるゲッキツ等についても移動規制の対象植物として追加することになった。

これらの規制は所要の手続きを経て、本年4月中旬から開始されることとなっている。



海外のニュース 米国で分布を拡大するゾウムシ科の一種 (*Diaprepes root weevil*)

米国農務省(USDA)、北米植物防疫機関(NAPPO)、カリフォルニア州立大学やフロリダ州立大学等農業関係各機関は、*Diaprepes root weevil* (*Diaprepes abbreviatus* (Coleoptera: Curculionidae))の分布拡大に対し警戒するよう注意を呼びかけている。本種はカリブ海地域原産で1968年にプエルトリコからの観葉植物と共にフロリダ州中南部に侵入したと言われ、その後分布を拡大し、2000年にはテキサス州でも発見された。1974年以降カリフォルニア州に貨物として運ばれる植物から度々発見されており、その都度廃棄処分が行われてきたが、2005年にはカリフォルニア州南部のオレンジ郡とロサンゼルス郡の都市部で、2006年にはサンディエゴ郡の都市部でも侵入が確認された。

本種は腹部背面に黄色から赤褐色の鮮やかな模様を持つゾウムシである。体長は10～19mmで、カンキツ類、ピーナッツ、トウモロコシ、サツマイモ、サトウキビ等の農作物を含む270種以上の植物を加害することが知られている。特にカンキツ類や各種植物の苗は本種幼虫の好適寄主植物であり、主根への食害は植

物の衰弱や枯死等の深刻な被害を引き起こす。また、幼虫は土中に生息するため、早期の発見及び効果的な防除が困難であることも問題の一つである。成虫は平均130日以上生存し、この間に雌は平均5000個の卵を産む。2枚の葉を貼り合わせた間に30～260個ずつ産み付けられた卵は、7～10日で孵化し、幼虫は地上に落下する。幼虫は8～15ヶ月間を土中で過ごした後、蛹となり15～30日で羽化する。

フロリダ州では、化学的防除、耕種的防除、生物的防除を用いたIPM(総合的害虫管理)による被害の軽減が図られてきた。また、現在カリフォルニア州でも本種の農業地帯への分布拡大をくい止めるべく食品農業局による調査・防除計画が実施されている。

(参考文献)

<http://www.citrusent.uckac.edu/Diaprepeshomepage.htm>
<http://www.cdffa.ca.gov/phpps/pdfs/Diaprepes.pdf>

発行所 横浜植物防疫所
 〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045)211-7155
 発行人 川口嘉久
 編集責任者 君島悦夫
 印刷所 内村印刷株式会社